

2004(平成16)年度 法学既修者選考試験問題

商 法

(90分、総点100点)

試験開始のベルが鳴るまで開かないこと

注 意

1. 問題用紙は、表紙をふくめて4ページで、問題は2問ある。
2. 解答用紙は1枚配布する。解答は解答用紙に記入し、各設問の解答の末尾には、「以上」と明記すること。また、用紙が不足した場合には、追加の用紙を配布するので、挙手して監督者に知らせること。
3. 下書き用紙として、白紙を1枚配布する。ただし、下書き用紙の提出は認めないので、必ず解答用紙に清書して提出すること。
4. 解答用紙への受験番号、氏名記入は、監督者の指示によること。また「管理番号」欄は、大学側が使用するので受験生は記入しないこと。
5. 問題の内容に関する質問には、応じない。
6. 試験時間内の退場はできない。なお試験中の発病等やむを得ない場合には、挙手により監督者に知らせ、その指示に従うこと。
7. 試験終了後は、監督者の指示があるまで、各自の席で待機すること。
8. 問題用紙及び下書き用紙は、各自で持ち帰ること。

第1問

甲株式会社の株主総会において、定款に「当社の株式を当社の株主以外の者に譲渡する場合は、株主総会の承認を得なければならない」という規定を新設する議案が承認された。ところが、本承認決議に関して、株主Aに招集通知が発送されていなかったこと、および、株式を譲り受けたが株主名簿の名義書換をしていないBが議決権を行使するのを会社が拒絶しなかったことが判明した。この定款変更を阻止したい株主Xは、どのような法的手段をとることができるか。考えられるものすべてを挙げ、それぞれについて検討せよ（55点）。

第2問

AがBに約束手形を振り出したが、EがBからその手形を盗み出し、Bの裏書署名を偽造し、BになりすましてCに裏書した。Cはさらにその手形をDに裏書した。

以上の場合に関する下記の設問に答えよ（45点）。

- (1) DはAに手形金を請求できるか。
- (2) DはEに手形金を請求できるか。
- (3) DはCに手形金を請求できるか。